

ちよつといし話

～ 甲申 ～

正月を迎える、今年こそは正しく生きようと昨日までの自分と決別し、新しい自分、再出発を誓う折り目として年の初めには必ず正月がやって来ます。ですから一休禅師は「正月は死での旅路の一里塚、楽しくもあり楽しくもなし」と詠んでいます。生活の神髄は八正道を尊信し歩みなさい、とお釈迦様が大眾を前に初めての説法をされました。これを**初転法輪**と呼んでおります。八正道とは正見（正しい見解）、正思（正しい思惟）、正語（正しい言葉）、正業（正しい行い）、正命（正しい生活）、正精進（正しい努力）、正念（正しい心の落ち着き）、正定（正しい精神統一）であり、我々が人間として生まれ死ぬまでの苦悩を四諦（苦、集、滅、道）で表し、その中の道諦にこの八正道が解決の所作として説明されました。ほんとうに正しいのか？どうなのか？判断に誤りがなければ、仏教的に言えば悟りを得た事になります。しかし現代は部分的な化学に頼りすぎ、後に環境破壊につながり困惑している問題が山積されています。自然には自然体の科学によって正しく判断された中で進んでほしいものです。人や物に始まり森羅万象すべてに感謝、感謝。

経に曰く、山より高き父の恩、海より深き母の恩、知ることこそ道のはじめなり、衆生の中にただ一人父とかしずき母と呼ぶ、貴きえにし伏し拝み、起てよ人の子いざ起ちて浮き世の風にた々かれし、老いて後思い知るこそ悲しけれ、孝は百行の基にして信への道の正門ぞ。と各家庭から縦のつながり、横のつながりを確認し、真の信仰に入りましょう。雨降って地固まるかも***

善入院油掛地藏尊